

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は130円を固めて一段高か

[5月2日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月25日～4月28日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	128.42	130.66(28)	126.95(27)	130.34	+1.84
ユーロ・ドル	1.0807	1.0851(25)	1.0483(28)	1.0519	-0.0271

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値 前週末比		終値 前週末比	
日経平均株価	26,847.90	-257.36	日本10年債利回り	0.227	-0.023
ダウ平均株価	33,301.93	-509.47	米10年債利回り	2.832	-0.067

=====

<来週の主要経済統計等>

- 2日 独4月製造業PMI確報値、ユーロ圏4月製造業PMI確報値
英4月製造業PMI確報値
米4月製造業PMI
米4月ISM製造業景況指数、米3月建設支出
- 3日 豪中銀(RBA)政策金利
独4月雇用統計
ユーロ圏3月生産者物価指数、ユーロ圏3月雇用統計
米3月製造業受注
- 4日 NZ第1四半期雇用統計
豪3月小売売上高
独3月貿易収支
独4月非製造業PMI確報値、ユーロ圏4月非製造業PMI確報値
英4月非製造業PMI確報値
ユーロ圏3月小売売上高指数
米4月ADP雇用統計
米3月貿易収支
カナダ3月貿易収支
米4月サービス業PMI確報値
米4月ISM非製造業景況指数
米連邦公開市場委員会(FOMC、3～4日)政策金利
パウエルFRB議長記者会見
- 5日 豪3月貿易収支、豪3月住宅建設許可件数
独3月製造業受注指数
スイス4月消費者物価指数
英中銀(BOE)政策金利
米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数
石油輸出国機構(OPEC)プラス閣僚級会合(オンライン)
- 6日 スイス4月雇用統計
独3月鉱工業生産指数
米4月雇用統計
カナダ4月雇用統計
カナダ4月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】FRBによる金融引き締めスタンス、日銀による緩和策の継続を背景にドル円は底堅い動きを続けることとなりそうだ。テクニカル的な過熱感による調整を挟んで、ドル円は130円を指向して一段と上昇を続ける可能性が高いとした。

【FOMCや米雇用統計に注目】

5月2日の週には日本市場はゴールデンウィークで大型連休となり、お休みムードが広がる。ただ、米国では3～4日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催され、6日には4月の米雇用統計が発表される。注目度の高い経済指標やイベントが目白押しとなり、その動向が注目される。

4月28日の日銀金融政策決定会合の結果発表では、現行の長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）付き量的・質的金融緩和政策の継続を賛成多数で決定した。指し値オペを「明らかに応札が見込まれない場合を除き、毎営業日、実施する」と発表した。これを受けて、ドル円は128円台後半から129.80円台まで上昇を見せた。

その後、129円台後半でもみ合い後に130円台の大台にに乗せた。黒田日銀総裁の記者会見では金融緩和策の継続を強調したことで、130.60円台まで一時上昇した。金融引き締めに向きな米国と緩和的なスタンスを維持する日本の金融政策が対照的なことから、ドル買い円売りが進行した。

CME FEDウォッチによると、5月3～4日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.50%の利上げ確率は97%前後に達しており、5月のFOMCでの0.50%の利上げはほぼ確実とみられる。6月14～15日のFOMCでの0.50%の利上げ確率は20%前後の水準に低下する一方、0.75%の利上げ確率が80%前後に上昇している。

今回のFOMCでは0.50%の利上げを実施したうえで、バランスシートの縮小にも動くと思われる。3月のFOMCの議事要旨では、「5月にもバランスシート縮小を開始して、月額950億ドルを上限とする」「国債は600億ドル、住宅ローン担保証券（MBS）は350億ドルを上限として、償還を迎えた債券は再投資しない」といった点が明らかになっており、今回は具体的な行動計画が示されるとみられる。また、今後の引き締めに関してどう動いてくるかのヒントが出てくるかが重要となる。市場の想定以上に引き締めが加速するかどうか注目される。

米10年債利回りは22日に2.92%前後まで上昇、3%が視野に入ってきた。ただ、その後は伸び悩みを見せている。ドルインデックスは3月30日の97台後半から4月28日には103台前半まで上昇しており、ドル高の流れは衰えていない。

FRBによる金融引き締めスタンスに変化はなく、日銀の緩和姿勢も継続することで、ドル円は底堅い動きを見せることとなりそうだ。ただ、FRBによる金融引き締めを警戒しての株安などがドル円の上値を抑える可能性もある。そうした中、ドル円は高値圏でのみみ合いながら130円台を固めて一段高となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、127.50～132.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、2日に米4月製造業PMI、米4月ISM製造業景況指数、米3月建設支出、3日に米3月製造業受注、4日に米4月ADP雇用統計、米3月貿易収支、米4月サービス業PMI確報値、米4月ISM非製造業景況指数、米連邦公開市場委員会（FOMC、3～4日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、5日に米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数、6日に米4月雇用統計などがある。

【ユーロドルは下落基調で推移か】

中国の景気減速懸念や米国の金融引き締めに関する警戒感から米国株が下落すると、リスク回避のドル買いの動きとなり、ユーロドルは軟調な流れを見せた。さらに26～27日には、ロシアのガスプロムがポーランドとブルガリアへの天然ガス供給を停止するとの報道がユーロ売り圧力となった。ユーロドルは28日に1.05割れまで下落する展開となった。

ドルの強さに加えて、ウクライナ戦争の影響でユーロ圏での経済活動やエネルギーの安全保障に警戒感が広がることとなった。ユーロ圏のインフレ率は高水準で、欧州中央銀行（ECB）による利上げ観測は高まりつつある。ただ、ウクライナ戦争によるマイ

ナス面の影響が大きく、ユーロドルは下落基調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0300～1.0800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、2日に独4月製造業PMI確報値、ユーロ圏4月製造業PMI確報値、英4月製造業PMI確報値、3日に豪中銀（RBA）政策金利、独4月雇用統計、ユーロ圏3月生産者物価指数、ユーロ圏3月雇用統計、4日にNZ第1四半期雇用統計、豪3月小売売上高、独3月貿易収支、独4月非製造業PMI確報値、ユーロ圏4月非製造業PMI確報値、英4月非製造業PMI確報値、ユーロ圏3月小売売上高、カナダ3月貿易収支、5日に豪3月貿易収支、豪3月住宅建設許可件数、独3月製造業受注指数、英中銀（BOE）政策金利、6日に独3月鉱工業生産指数、カナダ4月雇用統計、カナダ4月IVEY購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。